基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同
第 3 回自然史・古生物学分科会

日時：　平成 31 年 1 月 8 日（火）13：30-15：30
場所：　日本学術会議 6 階　6 －A (1)
出席者：大路樹生、岸本健雄、窪川かおる、白山義久、西弘嗣、西田治文、堀利栄、松浦啓一、真鍋真（五十音順）
欠席者：北里洋、武田洋幸、西田睦、鷲谷いづみ

議事
（1）大学の学術標本調査結果の検討
堀委員より進捗状況について、資料の説明と現状報告が次のようにあった。1）人的・時間的な困難などのため、回答が難しい場合が多かった。2）標本の廃棄が目立った。移管で残ったものもある。3）研究者が少ない分野、規模の小さな施設では維持が難しいなど。説明に対して次のように意見交換がなされた。アンケート結果は関係大学等のネットワーク構築に有用となる。タイプ標本を中心に結果を整理してはどうか。タイプ標本については九州大学の伊藤泰弘氏の調査との関連が考えられる。今後、意見の発出およびシンポジウム開催を堀委員を中心とする WG で検討することとなった。

（2）国立自然史博物館に関するシンポジウム
国立自然史博物館設立の活動は沖縄政財界およびアカデミアの支援で良い方向に動いている。公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」を 2 月 1 日（金）13：00-17：00 に沖縄銀行本店 5 階ホールで開催する。白山委員より名護市で 2020 年に計画している記念行事に同博物館シンポジウムをジョイントする提案があった。

（3）大型学術研究の提案について
当分科会の委員から提案する。国立自然史博物館設立準備委員会、沖縄県の誘致可能性などの強力な背景が今回はある。沖縄に設置する意義は世界自然遺産との関係が重要である。

（4）その他
西田治文委員より東大出版会の Natural History Series は、岩槻先生著書が最後となることが報告された。学術標本保存に関する議論や標本を扱うキュレーターが少ないことなど、様々な課題について、たとえば古生物学会との連携で意見の発出を考えていくための WG を始動してはどうかとの意見があった。

資料（番号無し）
・1981 年調査の大学に対して今回実施したアンケートに関する現時点での回答
・公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」の開催告知
・前回の大型学術研究提案書「国立沖縄自然史博物館の設立―東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現―」